

彙 報

会 長 早 田 輝 洋

平成14年度第2回常任委員会

本常任委員会は、次期役員選挙が近づいており、また議題に次期役員選挙に関する事項があることから、選挙管理委員会と合同で開催することとし、了承されたものである。

日 時：平成14年9月28日（土）午後2時～5時

場 所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所セミナー室

出席者：早田輝洋（会長，兼選挙管理委員長），梶 茂樹（事務局長），大石正幸，坂本比奈子（兼選挙管理委員），庄垣内正弘，早津恵美子（兼選挙管理委員），松村一登

オブザーバー：田窪行則（編集委員長），外池滋生（第126会大会実行委員長），日比谷潤子（大会運営委員長，兼選挙管理委員），塩原朝子（事務局長補佐）

選挙管理委員：長嶋善郎

議題

[報告事項]

(1) 平成13年度決算書と平成14年度予算書の数字訂正について

平成13年度決算書の資産勘定票において、前受会費の「国内学生」の欄が50,000円となっていたが、60,000円が正しく、次期繰越は2,316,502円である。また14年度予算書の収入における積み立てからの繰入金も、合計が2,750,000円となっているが、正しくは3,500,000円である。いずれの場合も、各項目内での単純計算ミスであり、全体としては数字に変更はない。

(2) 人文学系大学評価委員会評価委員の選考結果について

上記の委員について、日本言語学会が推薦した4名の候補者のうち、分野別研究評価委員に上野善道氏が選ばれた旨の通知が、大学評価・学位授与機構からあった。

[審議事項]

(1) 会員名簿作成について

今年末に発行予定の日本言語学会会員名簿の作成に関して、前回は参考にその日程を確認し、会員向けに発送する文書の文言を決定した。

(2) 次期役員選挙について

来年度からの次期役員選挙について、選挙管理委員会と常任委員会で、前回の例を参考にその日程を確認し、会員向けに発送する文書の文言を検討した。選挙の詳細については、今後、選挙管理委員会で詰める予定である。

(3) 第126回大会（東北学院大学）について

11月3日（日）、4日（月、代休）開催予定の第126回大会について、日比谷潤子大会運営委員長より準備状況およびプログラムの報告があった。59件の応募中、38件を採択した。今大会では、新しい試みとして、第二日目の午後にワークショップ2件を平行して開催することになった。テーマはそれぞれ「複合動詞の構造から見た格と意味役割」「話しことばのデータを使った文法研究の可能性」である。

また、大石正幸大会実行委員長より、開催校側の準備状況について報告があった。

(4) 第127回大会（平成15年度春期大会）について

上記大会について、会長より、青山学院大学の外池滋生氏に開催依頼をし、外池氏が受諾されたことの報告があり、これを了承した。

(5) 小委員会、作業部会からの報告

[A] 夏期講座検討小委員会（田窪行則委員）

平成14年8月19日～24日の日程で、第3回夏期講座が開催された。163名の受講生を含む185名の参加者があり、成功裏に終わった旨報告があった。

[B] 危機言語小委員会（坂本比奈子委員長）

委員の交代時期が近づいてきたため、来年度からの新委員候補の名簿を作成し、委員会に提出する旨報告があった。

[C] 大会運営委員会（日比谷潤子委員長）

今回、ワークショップを開催することを決定した。将来的にはテーマを公募する方向で検討を行っている。多方面から応募を求めることによって、大会のプログラムの多様化が見込まれるが、従来通り大会発表時に行うとすると研究発表を減らさざるをえない。この解決策として、ワークショップを土曜日の午前中（委員会開催中）に行ってはどうかという案が提出され、常任委員会で議論を行った結果、支持する意見が多かったため、第126回大会からの試行に向け、大会運営委員会で詳細を検討することとなった。

また、近く行われる委員の改選を機に、委員を2名増員することが提案され、委員会に諮る旨了承された。増員の理由は、研究発表の内容が多岐にわたることから、カバーできる専門分野を増やす必要があることと、現行の委員数では各委員の大会応募要旨査読の負担が大きいことがある。

[D] 学会ホームページ作業部会（松村一登部会長）

来年度以降、作業部会をどのように位置付けるかを審議した。ホームページに関する作業の引継ぎを円滑に行うため、小委員会を発足させる旨委員会に諮ることが決定した。

[E] 編集委員長（田窪行則委員長）

『言語研究』の編集状況について報告があった。第122号については編集作業が終わり、印刷にかかる状態である。第123号についても、順調に編集作業が進んでいる旨、報告があった。

(6) 特定領域研究「環太平洋の言語」主催の国際学術講演会に対する後援について

文部科学省特定領域研究 (A)『環太平洋の「消滅に瀕した言語」にかんする研究調査研究』が、第4回国際学術講演会を平成14年11月23日～25日に京都国際会館で開催する。この講演会を日本言語学会が後援する旨委員会に諮ることが承認された。

(7) 日本シミュレーション&ゲーミング学会からの後援依頼について

上記学会が主催する第34回国際シミュレーション&ゲーミング学会（平成15年8月25日～29日、かずさアカデミアパーク）に関して、日本言語学会に後援依頼があり、後援する方向で委員会に諮る旨決定した。

平成14年度第3回常任委員会

日 時：平成14年11月2日（土）午後4時～6時

場 所：東北学院大学大石正幸研究室

出席者：早田輝洋（会長）、梶 茂樹（事務局長）、大石正幸、久保智之、坂本 勉、清水克正、早津恵美子、松村一登

オブザーバー：田窪行則（編集委員長）、塩原朝子（事務局長補佐）

議題

[審議事項]

- (1) Blackwell 社刊行の雑誌 *Linguistics Abstracts* からの依頼について
 ブラックウェル出版社 (Blackwell Publishing) 刊行の雑誌 *Linguistics Abstracts* 編集部から、『言語研究』の要旨を掲載したい旨要請があった。この件について審議が行われ、第2回委員会に諮ることを決定した（こ

- の件についての詳細は、第2回委員会、審議事項(7)を参照のこと。
- (2) 2003年開催の国際言語学者会議への日本学術会議からの派遣について
上記の件について日本学術会議から候補者の推薦依頼があったが、候補者となる資格を備える者(日本学術会議会員または研究連絡委員)の中に候補者がいないことから、今回は応募を見合わせる旨決定した。
- (3) 日本学術会議の研究連絡委員の兼任禁止規定について
現在、日本学術会議の研究連絡委員と科学研究費補助金審査員は規定により兼任出来ない(言語学会委員会内規1)。この規定について、上野善道委員から実情にそぐわないため廃止するべきであるとの提案があった。この件について審議した結果、この件については第2回委員会で上野委員に説明を求め、審議することを決定した。
- (4) 学会ホームページ小委員会委員について
第2回常任委員会で、来年度から学会ホームページ小委員会を発足させる旨、委員会に提案することが決まったが、そのメンバーに関して、松村一登氏から候補者の名簿が提出され、委員会にはかることになった。

平成14年度第2回委員会

日 時：平成14年11月3日(日)午後12時20分～1時50分

場 所：東北学院大学(土曜キャンパス)8号館3階第一・第二会議室

出席者：早田輝洋(会長)、梶 茂樹(事務局長)、上野善道、梅田博之、影山太郎、久保智之、郡司隆男、坂原 茂、坂本 勉、坂本比奈子、崎山理、清水克正、庄垣内正弘、田窪行則、田村すず子、西光義弘、林徹、原口庄輔、樋口康一、日比谷潤子、福井 玲、町田 健、松村一登、宮原文夫、藪 司郎、吉田和彦(以上26名)

委任状：34名

オブザーバー：大石正幸(第125回大会実行委員長)、窪園晴夫(会計監査委員)、塩原朝子(事務局長補佐)

議題

[報告事項]

議事に先立って第125回大会実行委員長、大石正幸氏(東北学院大学)より大会開催にあたっての挨拶があった。

- (1) 平成13年度決算書と平成14年度予算書の数字訂正について
上記の件について、梶 茂樹事務局長から報告があった(詳細は、第2回常任委員会報告「報告事項」(1)を参照のこと)。
- (2) 第2回常任委員会、及び第3回常任委員会報告
梶 茂樹事務局長から平成14年9月28日(土)に開かれた第2回常任

委員会、及び平成14年11月2日（土）に開催の第3回常任委員会について報告があった（詳細は常任委員会報告を参照のこと）。

(3)委員会、作業部会の活動報告

(A) 夏期講座小委員会（西光義弘委員長）

日本言語学会第3回夏期講座（2002年8月19日～24日）について以下の報告があった。受講生は163名である。1,181,161円の赤字が出たが、これはあらかじめ見込まれていたものである。受講生を対象としたアンケートの結果を見ると、運営や講座の内容については好評であった。

(B) 危機言語小委員会（坂本比奈子委員長）

広報、および委員間の連絡のため、小委員会のホームページを立ち上げた。委員の交代時期が近づいてきたため、新委員候補の名簿を旧委員で作成中である。次期委員会には独自の活動を期待する。

(C) 大会運営委員会（日比谷潤子委員長）

9月6日に委員会を開催し、第125回大会のプログラムを決定した。59件の応募中、38件の発表を採択した。

(D) 学会ホームページ作業部会（松村一登部会長）

『言語研究』の目次に関して過去二十年分の検索が可能になった。今後、掲載論文の要約もアップする予定である。

(E) 編集委員会（田窪行則委員長）

前回の委員会での議論を元に『言語研究』の執筆要項を変更し、英文版とともに最新号に掲載した。また、次号123号の編集状況について順調に作業が進んでいる旨報告があった。

(4) 次期役員選挙について

早田輝洋選挙管理委員長から、前例にならって手続きを進めている旨報告があった。

〔審議事項〕

(1) 126回大会について

平成15年6月14日（土）、15日（日）の2日間、青山学院大学を会場に開催することが提案され、了承された（その後、開催校の都合により、日程が平成15年6月21日（土）、22日（日）の両日に変更された）。

(2) 大会運営委員の増員について

大会運営委員会の日比谷潤子委員長より、近く行われる委員の改選を機に、委員を2名増員することが提案され、了承された。この結果、現在10人の委員が12名となる。

(3) 学会ホームページ小委員会の発足について

現在ホームページ運営を担当している「作業部会」を「小委員会」に格

上げする旨提案があり承認された。小委員会のメンバーは、従来の作業部会の責任者である松村一登委員長以下、福井 玲氏（東京大学）、後藤 齊氏（東北大学）、および、飯田朝子氏（中央大学）である。

- (4) 特定領域研究『環太平洋の言語』主催の国際学術講演会後援について
上記の件について、危機言語小委員会の坂本比奈子委員長より報告があった。特定領域研究 (A)『環太平洋の「消滅に瀕した言語」にかんする研究調査研究』が、第4回国際学術講演会を平成14年11月23日～25日に京都国際会館で開催する。この講演会を日本言語学会が後援することが承認された。
- (5) 日本シミュレーション&ゲーミング学会大会後援について
上記学会が主催する第34回国際シミュレーション&ゲーミング学会（平成15年8月25日～29日、かずさアカデミアパーク）に関して、日本言語学会に後援依頼があった。この件について審議が行われ、議論の結果、後援することに決定した。これにより、日本言語学会会員は、上記学会の会員と同じ参加費で上記学会に参加が可能となる。
- (6) 第3回アジア辞書学会大会後援について
上記学会大会（平成15年8月27日～29日、明海大学）について言語学会に後援依頼があった。この大会について明海大学の原口庄輔委員より説明があり、審議の結果、後援を行うことを決定した。
- (7) Blackwell 社刊行の雑誌 *Linguistics Abstracts* からの依頼について
ブラックウェル出版社（Blackwell Publishing）刊行の雑誌 *Linguistics Abstracts* 編集部から、『言語研究』の要旨を掲載したい旨要請があった。この件について審議が行われ、議論の結果承諾することに決定した。この雑誌は、世界各国の言語学関連の学術論文集、学会論文集、紀要等からの論文要旨を掲載した学術雑誌（年4回発行）である。承諾にあたり、言語学会は毎年『言語研究』を *Linguistics Abstracts* 編集部に送付することになった。
- (8) 2003年開催の国際言語学者会議への日本学術会議からの派遣について
上記の件について日本学術会議から候補者の推薦依頼があったが、候補者となる資格を備える者（日本学術会議会員または研究連絡委員）の中に候補者がいないことから、今回は応募を見合わせる旨決定した。
- (9) 日本学術会議の研究連絡委員の兼任禁止規定について
現在、日本学術会議の研究連絡委員と科学研究費補助金にかかる審査員は規定により兼任出来ない（言語学会委員会内規1）。この規定について、上野善道委員から実情にそぐわないため廃止するべきであるとの提案があった。審議を行った結果、この件に関しては、今回の委員会では

結論を出さず、次期執行部への申し送りとすることとなった。これは、近い将来日本学術会議のありかたに関して見直しが行われる見込みがあり、その動向を見た上で決定を行うのが賢明であると考えられるためである。

平成14年度第2回「危機言語」小委員会

日 時：2002年11月22日（金）午後4時～6時

会 場：京都国際会館会議室

出席者：梶 茂樹，坂本比奈子（委員長），崎山 理，笹間 史子，田村すず子，角田太作，津曲敏郎，奈良 毅，林 徹，福井 玲，峰岸真琴

議題

〔報告事項〕

- (1) 第四回国際学術講演会の後援について
11月23日～24日に科研「環太平洋の言語」主催の国際講演会「消滅に瀕した言語」が行なわれたが、日本言語学会が後援をすることが決まった旨の報告があった。
- (2) 次期小委員会委員候補者名簿作成のためのアンケートについて
委員長から、次期小委員会委員候補者名簿作成のため、MLによるアンケートを実施した旨の報告があった。
- (3) 笹間委員から、危機言語にかんするユネスコへの提言をまとめるために、ユネスコ無形文化財危機言語特別専門家グループが草案を検討中である旨の報告があった。それをうけて、委員の何人かが、草案検討の会議に参加した。

〔審議事項〕

- (1) 次期小委員会委員候補者選出について
今年度末で、現委員の3年の任期が切れるため、危機言語小委員会規定に基づき、次期委員候補者選出のための話し合いが行われた。新委員の選出にあたっては、今後の小委員会の活動を一層活性化するために、実際に危機言語の研究に従事する研究者を中心に、動きやすい若手委員を増やすことなどが選出方針として確認し、前記アンケートにおいて次期委員を辞退された方を外して新メンバーの推薦を行った。その結果、以下の13名の方々を次期委員候補として選出され、候補者名簿を新たに選出される新会長に提出することが確認された。新会長が委員会に諮って委員会メンバーが確定することになる。なお、規定によれば、小委員会の定員は20名であり、今回の候補者数は定数不足であるが、とりあえずこれで発足し、適当な方があった場合に追加していくことで合意

した。

新委員候補者

奥田統巳, 梶 茂樹, 笹間史子, 田村すず子, 角田太作, 稗田 乃,
村崎恭子, 遠藤 史, 風間伸二郎, 金子 亨, 吳人 恵, 佐々木 冠,
中山俊秀

(2) 危機言語・少数言語研究者養成のための言語学会への提言

危機言語の調査研究は時間との戦いであるにもかかわらず、若手研究者がなかなか育たないという悩みがあり、本委員会でもこの問題は繰り返し取り上げられてきたがこれまで具体的な方策を打ち出すことができなかった。そこで、若手研究者に刺激とチャンスを与えるための方策を提言としてまとめ、言語学会に危機言語小委員会として提案することが検討された。

平成14年度夏期講座検討小委員会

日本言語学会第3回夏期講座に関して、実行委員長の三原健一氏から以下の報告があった。

- (1) 2002年8月19日～24日の6日間、白樺湖畔水源荘（長野県茅野市）で、第3回夏期講座を実施した。
- (2) 期間中、163名の受講生があった。12名の講師、5名の実行委員、5名のアルバイトを加えると、合計185名の参加者であった。
- (3) 受講料を中心とする収入（合計8,257,638円）に対して、施設使用料、講師謝金などの支出（合計9,338,799円）があり、約108万円の赤字が出た。その理由として、全員合宿形式に伴う参加者の出費を、極力押さえる方針で開催したことが挙げられる。収支の詳細は平成14年度の決算報告（『言語研究』第124号掲載予定）を参照されたい。
- (4) 参加者を対象にアンケートを実施した。回答を見る限りでは、「非常によかった」「かなりよい」がほとんどで、参加者の満足度が高かったことが分かる。しかし、全員合宿形式でもよいとする人が参加したことを考慮すると、通いでも参加可能な形式を併用する方が望ましいのかもしれない。なお、アンケート調査の結果を踏まえると、一般参加者の受講料はもっと増額してよいと思われる。

2004年度に第4回夏期講座を開催する方向で検討しているが、開催場所などの詳細はまだ決定していない。なお、2003年度の夏期講座検討小委員会のメンバーと、2004年度の夏期講座の実行委員については、現在、小委員会できりまとめ中である。

第125大会

期 日 2002年11月3日(日)～4日(月)

会 場 東北学院大学(土樋キャンパス)

第1日(11月3日)

開会の辞		会 長
開催校挨拶		倉 松 功
シンポジウム	「音韻領域」	司 会 那須川 訓也
講 師		
那須川訓也	「超分節構造と分節内構造の相関」	
ヒューバート・トラッケンプロト		
	「南ドイツ語のイントネーションと日本語のイントネーション」	
久保智之	「音韻句とフォーカス, シンタックス」	
吉田和彦	「プロソディと歴史言語学」	

第2日(11月4日)

研究発表 午前10時～午後3時50分

◦A 会場

	司会	野田 尚史	
(A 1)	10:00～	動名詞と結合するゼロの受動化接辞 —新聞・雑誌記事の場合—	佐 藤 豊
(A 2)	10:30～	スペイン語・日本語二言語併用児の会話 の分析—コードミキシングを中心として—	久津木 文
(A 3)	11:00～	機能性構音障害における音声置換 —異音に着目した考察—	今 村 亜子 坂 本 勉
	司会	上田 功	
(A 4)	1:00～	Positional markedness in Catalan word-final deletion	菊池 清一郎
(A 5)	1:30～	日本語における短縮語形成とアクセント	田 中 真 一
(A 6)	2:00～	日本人の英語のコーダ位置にある音に 対する知覚能力について	榎 本 暁
	司会	後藤 斉	
(A 7)	2:50～	The Kosrae Dictionary and Curriculum Development Project	David A. Hough

- (A 8) 3:20~ フィールド言語学者のニーズに合った
多言語処理ツールの試み
小野 智香子
鈴木 麗 聖
松村 一 登

◦B 会場

- 司会 北野 浩章
- (B 1) 10:00~ 属性叙述における所有構文
—所有物の有標性の概念をめぐって—
澤田 浩子
- (B 2) 10:30~ 身体部分名詞につく「小」の達成量
数量詞的性質について
守田 美子
- (B 3) 11:00~ 複数表現における「異質性」
と「同質性」の対立
坂本 智 香
- 司会 定延 利之
- (B 4) 1:00~ 運動様態動詞における日英比較研究
藤田 万美子
- (B 5) 1:30~ 引用句の性質から見た発話
「～ッテ。」について
岩 男 考 哲
- (B 6) 2:00~ 「～のほう」は“ぼかし”表現か?
飯田 朝子
- 司会 日高 水穂
- (B 7) 2:50~ 島原方言の名詞音調
松浦 年 男
- (B 8) 3:20~ 栃木県東北本線沿線地域における言語境界
線変容に関する社会言語地理学的研究
高山 恵 理

◦C 会場

- 司会 遊佐 典昭
- (C 1) 10:00~ VP-ellipsis in control infinitives
大倉 直子
- (C 2) 10:30~ *-Tachi* as a Determiner
廣瀬 富 男
- (C 3) 11:00~ (Un)availability of “Bare Adjectives”
and Hidden Small Clauses
星 浩 司
- 司会 中村 捷
- (C 4) 1:00~ 主格照応形としての PRO
—束縛・コントロールの統一的分析—
小林 亜希子
- (C 5) 1:30~ Deriving Reciprocity from the
Symmetric Predicate *-Aw*
小町 将 之
鈴木 猛
- (C 6) 2:00~ Typological Variation of Nominal
Anaphoric Expressions: Distribution
and Interpretation in the Local Domain
中戸 照 恵
- 司会 吉田 和彦
- (C 7) 2:50~ ギリシア語の長い *ē* を持つ *s* 語幹
児玉 茂 昭

中性名詞について

- (C 8) 3:20~ ネットワーク語の授受動詞と拡張表現 松瀬育子
- D 会場
- 司会 生越 直樹
- (D 1) 10:00~ 韓国済州島方言の形容詞のアスペクト現象 金 光 珠
 について— /esi/ を中心にして—
- (D 2) 10:30~ 補助動詞構文「~てくる・いく」, 白 海 燕
 「~아/어오다 oda・가다 gada」,
 「~X 来 lai・去 qu」の日朝中対照
- (D 3) 11:00~ 韓国語と日本語の指示詞 ku 系とソ系の 金 善 美
 現場指示における中距離指示用法について
- 司会 栗林 均
- (D 4) 1:00~ チベット語から訳された仏典西夏語の 荒川 慎太郎
 諸特徴—西夏文『聖勝慧彼岸到功德宝集頌』
 を資料として—
- (D 5) 1:30~ トルコ語の mi に関する一考察 吉村大樹
- (D 6) 2:00~ 満州語文語の談話における接続表現 山崎雅人
 について
- 司会 林 徹
- (D 7) 2:50~ オリヤ語の、動作の再帰性を表すことが 山部 順 治
 できる3つの動詞形
- (D 8) 3:20~ Semantic factors affecting Hartenstein
 the morphological (non)marking Anne-Marie
 of middles in Hebrew
- E 会場
- 司会 井上 優
- (E 1) 10:00~ 韓国語の動詞性名詞形式「NP-uyVN」 尹 盛 熙
 の成立について
 —動詞性名詞の意味的側面を中心に— ✓
- (E 2) 10:30~ 事象タイプ強制転換とその意味的制約 江連和章
- (E 3) 11:00~ 『捷解新語』における「ホドニ」の 李 英 児
 階層的包含関係
- 司会 坂原 茂
- (E 4) 1:00~ 移動表現の類型と使役移動・視覚移動 松本 曜
 の表現
- (E 5) 1:30~ 前置詞 over における TR が持つ影響力 東谷真希

- (E 6) 2:00～ フランス語代名動詞の中立用法と受動用法 南 秀 聡
—動詞意味論的視点から—

ワークショップ 午後2時50分～4時20分

◦E 会場

「複合動詞の構造から見た格と意味役割」

オーガナイザー：小 泉 政 利

加 藤 幸 子

福光 優一郎

張 超

◦F 会場

「話し言葉のデータを使った文法研究の可能性」

オーガナイザー：鈴 木 亮 子

北 野 浩 章

藤 井 聖 子

日本学術会議第19期会員候補者・同推薦人等選出の選挙結果の報告

日本学術会議第19期会員候補者等選出のための委員による郵送投票を下記の通り行った。

2003年2月7日 投票用紙発送

2003年2月23日 投票締切（当日到着分有効）

開票は下記の選挙管理委員会で行われた。

日 時：2003年2月24日（月）14:00～15:00

場 所：東京外国語大学，アジア・アフリカ言語文化研究所，小会議室

出席者：早田輝洋（委員長），坂本比奈子，中川裕，林徹，原口庄輔，日比谷潤子，塩原朝子（事務局長補佐）

開票の結果は下記の通り。

1. 語学・文学研究連絡委員会に係わる会員候補者

投票数 21 うち有効投票数 21

当 選 早田 輝洋 3票

次 点 井出 祥子 3票

（早田輝洋氏と井出祥子氏が同数のため抽選により早田氏が当選となった）

2. 東洋学研究連絡委員会に係わる会員候補者

投票数 21 うち有効投票数 21

当 選 崎山 理 2票

次 点 ①梅田 博之 2票

②庄垣内正弘 2票

③早田 輝洋 2票

④西田 龍雄 2票

（崎山理氏，梅田博之氏，庄垣内正弘氏，早田輝洋氏，西田龍雄氏が同数のため抽選により上記の順になった）

3. 語学・文学研究連絡委員会に係わる推薦人・推薦人予備者

投票数 21 うち有効投票数 19

白票 1 ✓

当 選 上野 善道 4票（推薦人）

当 選 井出 祥子 3票（推薦人）

次 点 ①吉田 和彦 3票（推薦人予備者）

②小泉 保 3票

（井出祥子氏，吉田和彦氏，小泉保氏が同数のため，抽選により井出氏が当選となり，吉田氏が推薦人予備者となった。なお，その後，井手氏は社会言語学会から会員候補者として推薦されることが決まったため，吉

田氏が推薦人となった.)

4. 東洋学研究連絡委員会に係わる推薦人・推薦人予備者

投票数 21 うち有効投票数 21

当 選 庄垣内正弘 5票

次 点 ①田村すず子 3票

②梅田 博之 3票

(田村すず子氏と梅田博之氏が同数のため、抽選により田村氏が推薦人予備者となった.)

日本語学会平成15～17年度役員選挙の結果について

平成15～17年度役員（会長，編集委員長，会計監査委員，委員）の選挙を，会則・選挙規則および選挙細則に基づいて，以下の日程で行った。

2002年12月24日 選挙人名簿発送

2003年1月22日 投票用紙発送

2003年2月16日 投票締切（当日消印有効）

開票は下記の選挙管理委員会で行われた。

日 時：2003年2月24日（月）15:00～20:00

場 所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，小会議室

出席者：早田輝洋（委員長），坂本比奈子，中川裕，林徹，原口庄輔，日比谷潤子，塩原朝子（事務局長補佐）

開票の結果は下記の通り。

投票総数 177 うち有効投票数 174
無効 3

1. 会長選挙

投票数 166 うち有効投票数 161
白票 4
無効（白票を除く） 1

当 選 庄垣内正弘 38票

次 点 宮岡 伯人 17票

次次点 土田 滋 13票

2. 編集委員長選挙

投票数 166 うち有効投票数 161
白票 5

当 選 吉田 和彦 14票

次 点 郡司 隆男 14票

次次点 影山 太郎 10票

(吉田和彦氏と郡司隆男氏が同数のため抽選により吉田氏が当選となった)

3. 会計監査委員選挙

投票数	332(166×2)	うち有効投票数	300
		白票	28
		無効(白票を除く)	4

当 選 梶 茂樹 21票

当 選 松村 一登 13票

吉田 和彦 13票

次 点 田窪 行則 11票

次次点 井上 史雄 9票

(松村一登氏と吉田和彦氏は同数であるが、吉田和彦氏が編集委員長に選出されていることから、兼任禁止規定により、松村氏が当選となった。)

4. 委員選挙

・選挙細則に基づき、当選者のみを各地区別に五十音順に掲げる。

[北 海 道] (定数2名) : 池上二良, 津曲敏郎

[東 北] (定数3名) : 栗林 均, 福地 肇, 堀江 薫

[関 東] (定数29名) : 相澤正夫, 井出祥子, 井上史雄, 梅田博之, 上野善道, 大津由紀雄, 荻野綱男, 生越直樹, 尾上圭介, 風間喜代三, 菊地康人, 北原久嗣, 坂原 茂, 坂本比奈子, 城生佰太郎, 杉戸清樹, 高見健一, 田村すず子, 角田太作, 長嶋善郎, 林 徹, 早津恵美子, 原口庄輔, 日比谷潤子, 福井 玲, 松本克己, 松森晶子, 峰岸真琴

[中 部] (定数10名) : 加藤重広, 小泉 保, 斎藤 衛, 清水克正, 柘植洋一, 丹羽一彌, 原田かつ子, 藤本幸夫, 堀 素子, 町田 健

[近 畿] (定数18名) : 影山太郎, 岸本秀樹, 金水 敏, 窪園晴夫, 郡司隆男, 崎山 理, 佐藤昭裕, 柴谷方良, 田窪行則, 田野村忠温, 西光義弘, 野田尚史, 益岡隆志, 宮岡伯人, 藪 司郎, 山梨正明, 吉田和彦, 吉田 豊

[中国・四国] (定数5名) : 酒井 弘, 高永 茂, 玉岡賀津雄, 辻 星児, 樋口康一

[九州・沖縄] (定数5名) : 上山あゆみ, 木部暢子, 久保智之, 坂本 勉, 湯川恭敏

以上71名

なお、庄垣内正弘（近畿）、梶茂樹（関東）、松村一登（関東）の3氏は委員当選に足る票数を得たが、それぞれ会長あるいは会計監査委員に就任のため、兼任禁止規定により、委員とはならない。これに伴い当該地区で繰り上げ当選が生じた。また、関東地区で辞退者が1名あったが、選挙規則により補充しない。

◇ 退 会	
国内個人	30名
国内団体	1件
在外個人	10名

◇ 本学会評議員池上二良氏（82歳）が、常置国際アルタイ学会議（Permanent International Altaistic Conference, 略称 PIAC）より2002年度金メダル（PIAC Gold Medal, 正式名称 Indiana University Prize for Altaic Studies）を授与されました。この賞は1963年以来毎年、アルタイ学（チュルク・モンゴル・ツングース系民族の言語・文化・歴史）の分野で顕著な貢献をした研究者1名に対して、同会議事務局の置かれている米国インディアナ大学から贈られる国際的に権威ある賞で、日本人としては服部四郎氏（言語学）、岡田英弘氏（歴史学）に次いで3人目の受賞です。同氏の多年に渡る、ウイルトタ語をはじめとするツングース語研究が高く評価されたものです。

◇ 本誌は、文部科学省平成14年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を得て刊行されたものである。